

行動制限ゼロ への取り組み

行動制限におけるリスクマネジメント

行動制限ゼロへの取り組み

◆身体拘束ゼロの時代へ

- ・老後生活の最大の不安である介護を社会全体で支え、高齢者の自立を支援することを目的とした介護保険制度が、スタート
- ・高齢者が利用する介護保険施設等では身体拘束が禁止
- ・介護の現場では、「行動制限ゼロ作戦」として身体拘束のないケアの実現に向け、様々な取り組み

- ・人権擁護の観点から問題があるだけでなく、高齢者のQOL（生活の質）を根本から損なう危険性
 - ・高齢者の身体機能は低下し、寝たきりにつながるおそれがある
 - ・人間としての尊厳も侵され、時には死期を早めるケースも生じかねない
- 関係者が一致協力して身体拘束を廃止しようとする取り組みは、我が国の高齢者ケアの転換を象徴する



行動制限は「やむを得ない」のだろうか？

医療や看護の現場では、援助技術の一つとして、手術後の患者や知的能力に障害がある患者の治療において、安全を確保する観点からやむを得ないものとして行われてきている。



高齢者ケアの現場では・・・

- ・高齢者の転倒・転落防止など
- ・弊害を意識しながらもなかなか廃止できないジレンマ

「縛らなければ安全を確保できない」と自らを納得させること

抵抗感を次第に低下させている

「緊急やむを得ない場合」

「やむを得ない」と安易に行動制限を行っている

